

平成27年度第1回東金市学校教育問題検討懇談会
会議要旨

日時 平成27年12月18日(金)午前10時00分から11時45分まで

場所 東金市役所4階401会議室

出席した委員

東谷 仁 城西国際大学国際人文学部特任教授
高橋 邦夫 千葉学芸高等学校長
前嶋 里奈 東金市議会議員
相京 邦彦 東金市議会議員
三須 芳雄 東金市区長会連合会長
宮澤 敬人 源地区会長
松寄 光孝 北中学校PTA会長
鈴木 基正 東小学校PTA学年委員長
宮崎 孝男 東中学校長
石川 貢彦 福岡小学校長(敬称略)

欠席した委員

内田 武 東金中学校PTA会長
岩崎 顯二 丘山小学校PTA会長(敬称略)

事務局

飯田秀一教育長、錦見教育部長、櫻田教育部技監、吉井教育総務課長、
松井学校教育課長、井坂学校教育課副課長、大塚学校教育課学事係長

会議概要

1. 開会(午前10時00分) 司会 大塚係長
2. あいさつ 飯田教育長
3. 委嘱状交付 飯田教育長から各委員へ委嘱状を交付した。
4. 委員・事務局紹介 委員、事務局がそれぞれ自己紹介した。
5. 会長・副会長選出 事務局一任の意見を受け、会長に東谷 仁委員を、副会長に高橋 邦夫委員を提案し、承認をいただいた。
6. 諮問書の提出 飯田教育長が諮問書を読み上げ、東谷会長へ手渡した。
7. 協議事項等

懇談会要綱第5条の規定により、会議の議長は東谷会長となる。

(1)「東金市学校適正配置報告書」(平成22年11月)について

井坂副課長より配付資料に沿って説明した。

質問等なし

(2) 「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」について

井坂副課長より配付資料に沿って説明した。

東谷議長

ただいまの説明につきまして、何かご質問がありますでしょうか。

委員

5年前と状況が変わったこととしてこういった新たな手引き、新しい基準が示されましたが、東金市の小中学校で基準に合致している学校はどういったものでしょうか。

事務局

学校規模の標準を下回る場合の対応として、速やかな検討が必要とされる6学級以下の小学校ということで、市内では源小学校、丘山小学校、福岡小学校の3校が検討が必要とされる学校となっております。

委員

要望ですが、東金市以外の規模の小中学校数、児童数など他の自治体の状況について参考になる資料を次回提供いただきたいと思います。

(3) 今後のスケジュール（案）について

井坂副課長より配付資料に沿って説明した。

東谷議長

ただいまの説明につきまして、何かご質問がありますでしょうか。

委員

第2回会議で学校視察がありますが、地域の意見を聴く予定は入れていないのでしょうか。

事務局

アンケート調査は在校生の保護者を中心に行う予定ですが、地域に行って説明を行うことは本懇談会のほうでは予定しておりません。答申をいただいた後、答申に沿った形で、市・教育委員会が小中学校をどういった形にするかという計画を作っていきますが、その際に地区説明会・意見聴取・議会説明等を開催する過程があるかと思います。したがって本懇談会において地区に行って意見聴取を行うことは、今のところ予定しておりません。

委員

参考ですが、東金市では28年度から5年間の基本計画を作っていて、12月末から1月にかけてパブリックコメントを予定しています。この5年間に東金市が取り組む全ての事業について、地域の意見を寄せていただくチャンスがあると思いますので、このタイミングを利用して市に対して地域から意見を述べることは可能と思われます。

委員

アンケート調査について、在校生を中心にとの説明がありましたが、可能であれば保育所・幼稚園等に通っている今後、小中学校に上がっていく人たちの世代の意見を取り入れたほうが前向きな意見が出ると思いますので、検討してみてください。

委員

予定でいくとアンケート調査・分析が2月くらいから入っていますが、12月末から1月にかけての第4期基本計画のパブリックコメントで意見を求める項目に、具体的に学区の問題を含めることは可能でしょうか。

委員

懇談会としての結論はこれからのことなので当然書けませんが、基本計画の中で市がこれから取り組む事業の中に小中学校の適正規模・適正配置についての検討という項目がありますので、それについて意見をいただくことになるかと思いません。

東谷会長

今後のスケジュール（案）にご賛同いただける方は挙手をお願いいたします。

（全員挙手）

それではご承認いただいたものと決めます。

※10分間休憩

(4) 東金市立小学校・中学校の現状等について

井坂副課長より配付資料に沿って説明した。

東谷議長

ただいまの説明につきまして、何かご質問がありますでしょうか。

委員

5ページの表の右側の網掛けが掛かっているところは国立社会保障・人口問題研究所で作られたデータで、東金市では人口50,000人くらいを目標として努力していこうとしていて、この数値に違いがありますが、これについて何か見通しは作られているのでしょうか。

事務局

9月に東金市が作成した人口ビジョンに関しては、今後50,000人に近づけていく具体的なデータがあります。本日は現状をお示しする形で資料を用意したものですので、次回、人口ビジョン等の資料も用意が可能です。

委員

東金市の毎年の人口の流入流出を含めた人口動態から直近の5年・10年の推計値は作れると思うので、ぜひ用意いただきたい。18ページの資料ですが、先程の説明で転入・転出は考慮していないとありましたが、考慮しない結果どうなるかと

いうと、5年前の資料と比べてみますと東金中、東中、西中はほぼ推計値どおりだが、北中は167名の推計値に対して128名となっている。転入・転出をきちんと捉えないと誤差が大きくなる例なので、正確な数値に近づくよう推計に留意してください。

委員

北中の推計についてですが、山武南中に通学している源地区の生徒も何人かいるので、その辺りも加味されたほうが良いかと思います。山武市でも学区編制を進めています。通学距離の関係で行く学校がなくなった場合に、一番近いのは北中になるわけで、そうなるの見方も変わるとお思いますので、その辺りも加味してデータを作ってもらいたいと思います。

委員

直接関係ないかもしれませんが、東金市の世帯別の人口構成に城西国際大学の影響が強いと思います。特に18歳から22歳、大学院生の世代が極端に多くなっている危険があるので、単純に人口をスライドしては数字がずれる可能性があるので気をつけたほうが良いかと思います。

委員

要望ですが、学校配置の地図について、東金市は北西部が山の起伏が大きく、隣であっても崖があって学校に行けない場合があるので、等高線の入った地図で学校の配置を確認したいので用意いただきたいと思います。

委員

自分の認識として、片貝県道を境に東小と鶉嶺小の学区が別れていると思っていましたが、地図を見るとそうではない。このあたりの住民への周知はどうされているのでしょうか。

事務局

保護者の方へは小学校・中学校に上がる際に学区の線引きをご案内しています。また、田間であれば鶉嶺小に近い方は、保護者の申請を受け就学区域の変更の手続きを経て、認めている場合もあります。

委員

希望する学校に自由に行けるのですか。

事務局

自由に選択はできませんが、一定の要件を満たせば変更を認めています。主なものは距離的な要件で、通学の安全性を考慮し要件を満たせば変更を認めています。あくまで保護者の選択であって、申請があつて要件を満たせば区域外の就学を認めています。

委員

変更要件について、もう少し詳しく知りたいです。例えば、部活動、友人関係などは。

事務局

原則として各々の住所地で線引きをしています。そのうえで、住所異動に伴うものとして区域外に転居して、引き続き在学中の学校を希望する場合、地理的事由によるものとして先程説明した通学距離を勘案して隣接する学校を希望する場合、家庭環境によるものとして児童生徒が下校後に保護者が自宅にいない場合で親類等の家がある学区の学校を希望する場合などが主な変更要件となります。

委員

田間地区の児童が審査を経て鵠嶺小学校に通学した場合、中学校に上がる際は審査無く東金中を認めているのですか。

事務局

中学校に上がる際は、改めて環境、状況を確認するため事務手続きを行っています。

委員

申請して却下されることはあるのでしょうか。

事務局

窓口相談の説明の中で申出に対する可否をお伝えして理解を求めておきまして、実態として文書などで却下を伝えるというようなことはしておりません。

委員

部活動による要件は入っていないのですか。

事務局

東金市教育委員会では部活動による就学区域の変更は認めておりません。

委員

浦安市では小学校を自由に選べるシステムになっていると聞きました。しかし、保護者は魅力のある学校を選ぶので、学校の魅力をアピールするためのPTAの活動が大変だそうです。そうなるならちが上がりなくなってしまうと思います。

委員

東金市では公立幼稚園8園、保育所5園をこども園化しようとする動きがありまして、子ども子育て会議で市に答申を出しました。提言書では13園を4減1増の10園にしようとするもので、小中学校の統廃合に関係するので、認定こども園化に関する資料を提供いただきたいと思います。

事務局

本日、予め配付しようとも考えましたが、保育所・幼稚園は学区がございませんので、それが先行して議論に入るのはいかがなものかと考えまして、別に用意しております。公表されている資料なので、ただいまお配りいたします。

委員

先程の質疑で市内の学区変更の説明がありましたが、源学区の子どもで山武市に行かれている方が何人かいるかと思いますが、その辺りの現状把握はどうされてい

ますか。

事務局

源小から山武南中学校へ通学距離の関係、安全上の問題で申請を出されてこちらで認めている場合があります。下のほうでは福岡小から白里中などに、要件に合致すれば認めているケースもございます。逆に大網、山武など市外から東金市内に通学している場合もあります。

委員

越境して通学している状況の分かる資料をいただきたいと思います。

東谷議長

配付した資料の説明はありますか。

事務局

井坂副課長より配付した認定こども園化に関する資料を説明した。

委員

補足します。この計画はあくまでも来年から4年間の計画で、その後は全く関知していない計画です。既存の施設を活用しながら1園を新設するもので、その先の計画は今後の議論となります。恐らくこちらの計画が先に決まると思いますので、それに引きづられて新しいこども園の場所ですとか新たな計画が検討されると思います。

東金市の総合計画、総合戦略を進めていく中で、放っておけば人口が34,000人に減ってしまう、放っておかないでなんとか60年後でも50,000人を維持したい、そのためには若い子育て世帯がたくさん増えないといけないので、徴収率を上げるといことと、よそからの転入を図るといことが大きな柱となります。徴収率を上げることに関しては婚活を復活したり、新しい出店規模を増やしたりする取組みを進めるということ、特に転入ということに関しては東金市に魅力がないと来てくれないので、こども園も小学校も中学校も学校教育施設の魅力が高いということが転入の一つの条件、魅力となりますので、既存施設を展開しながらできるかもしれないけれど、もしかしたら、新しい小学校、中学校を造って、転入者にとっての魅力を高めることによって、東金市の生き残りを図る感じになると思います。

東谷会長

それでは、全体として何かご質問がありましたらお願いします。

今日予定されていた4つの協議事項ですが、これをもって終了となりますがよろしいでしょうか。

それでは議長の役を降ろさせていただきます。ご協力ありがとうございました。

以上